

Press Release

関係者 各位

奥山帆夏、木下理子、澤田光琉、白石効裁、竹林玲香：立ち顕れる一生きられた世界の見取り図
| *Drawing the World Near in Silent Observation*

会期 | 2025 年 7 月 5 日 (土) – 7 月 19 日 (土)

主催 | GALLERY SCENA.

会場 | 東京都港区赤坂 2-23-1 アークヒルズフロントタワー 1F

オープニング・レセプション | 7 月 5 日(土) 17:00 - 19:00

開廊時間 | 12:00 - 19:00

休廊日 | 7 月 7 日(月)・7 月 14 日(月)

協力 | タカ・イシイギャラリー

Website | <https://gallery-scena.com/exhibition/drawing-the-world-near/>

開催概要

GALLERY SCENA.(ギャラリー・セナ)では、7 月 5 日 (土) から 7 月 19 日 (土) まで、奥山帆夏、木下理子、澤田光琉、白石効裁、竹林玲香の 5 名によるグループ展「立ち顕れる一生きられた世界の見取り図」を開催いたします。

現実に触れたという実感を得にくい現代において、実存一生きてそこに在ること—は、芸術家にとってどのように知覚されるのでしょうか。本展では、フランスの哲学者モーリス・メルロ＝ポンティが提唱した「生きられた世界」という概念を手がかりに、作品に表れた視覚イメージそのものではなく、それがいかにして「立ち顕れて」くるのか、すなわち作家が「つくる」という行為を通してイメージを引き寄せ、定着させるプロセスに焦点を当てます。

芸術家が「つくる」ことで引き寄せるものは、必ずしも目に見えるものばかりではありません。ときにそれは、遠く離れた風景や出来事、あるいは記憶や感情といった、すでに意識の底に沈みつつあるものかもしれません。それらが、距離や隔て、投影や透過といった作用を経て、作品や空間という「場」にふたたび立ち顕れる—その過程、その瞬間に立ち会うことはできないのでしょうか。

本展に参加する 5 名の作家は、それぞれ絵画、写真、インスタレーションといった手法を用い、記憶の中の風景、日常に潜む微細な変化や奥行きをすくい上げながら、素材との対話を通し、作品という「場」に定着させていきます。こうして生み出された作品は、外から受け取ったイメージを投影した単なるスクリーンとしての「見取り図」ではなく、作家自身を含む、いまだ名付けえぬ事物同士の関係性の在りようを体感しようとする、芸術家たちの痕跡としての「見取り図」であると言えるでしょう。また、画布や素材

は、表現の最終到達地点ではなく、同時に「開かれた場」として、鑑賞者の内面をも重ね合わせる余地を含んでいます。鑑賞者はその傍らに立ち、声なき声に耳を澄まし、光の粒や揺らぎをたしかめるようにして、それらを受け取ることができるのです。

今ここに在るということ。そして、いまだ計り知れない世界の在りようを引き寄せ、その波打ち際に立つこと。

本展が、私たちが世界と再び出会い直すためのひとつの契機となれば幸いです。

作家プロフィール

奥山 帆夏 | Honoka Okuyama

1996 年北海道札幌市生まれ、2022 年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。

個展「Scope」toov cafe gallery（札幌、2024 年）、個展「Scene」ヨロコビ to（東京、2023 年）、「コードヤード・バイ・マリOTT札幌」内装アート（札幌、2024 年）ほか

取材した風景をもとに、色彩と共に抽象化した浮遊感を持つ絵画を制作。布が揺れ動く中で、曖昧な境界線を持つ風景は、二次元の世界から浮遊し、見る人の心情に入り込む。見え隠れする木々の輪郭は、地と図の境界を曖昧にし、人は自然と対象物を追おうとする。探し物をするように絵の中を漂う。



「film place」2023, Oil on panel, 72.7 x 72.7 cm

© Honoka Okuyama

木下 理子 | Riko Kinoshita

1994 年東京都生まれ。2019 年武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了。

個展「Map and Wind」pokettales（ソウル、2024 年）、個展「TYPO/PLATE」東塔堂（東京、2024 年）、個展「幽かなスリル」もりやまていあいとう/えいとう<森山邸>（東京、2024 年）ほか

水彩やサイアノタイプ（日光写真）などの技法を用いたドローイング、アルミホイルなどの身近な素材を使った立体、あるいはインスタレーションのような空間的な手法を用いて作品を制作。暮らしのなかで見落とされる些細な事柄を感知するための手がかりとして、作家のコントロールの及ばない重力、風、湿度、日光などにより、形や見え方が様々に変化する作品を「ドローイング」と呼び、環境や世界を知る「知覚装置」としての作品群を展開している。



「反芻 #1」 2025, Cyanotype on paper, 31.5 x 40.5 cm

© Riko Kinoshita

澤田 光琉 | Hikaru Sawada

1999 年滋賀県生まれ。2019 年東北芸術工科大学美術科洋画コース交換留学。2021 年京都芸術大学美術工芸学科油画コース卒業。

個展「Full Screen」京都 蔦屋書店（京都、2024 年）ほか

日常の中からモチーフを選び取り、光や影などの微細な変化を捉え対象を実体として理解しようとすることで、自身を取り巻く世界との関係性や距離を測り、隔たりを埋める手段としての絵画作品を制作している。2020 年の《Shape of Light》シリーズ以降、澤田は「光を描く」という試みにとどまらず、「イメージ—あるいは絵画そのもの—」がどのように光を反射しうるか、という問いに焦点を当てている。



「Calm Tone #5」 2025, Acrylic on canvas, 72.7 x 60.6 cm

© Hikaru Sawada

白石 効裁 | Kousai Shiraishi

1998 年韓国釜山生まれ。長野県出身。2022 年京都芸術大学美術工芸学科油画コース卒業。2024 年京都芸術大学大学院修士課程芸術専攻油画領域修了。

個展「洞窟で眠る」CANDYBAR Gallery（京都、2024 年）、個展「見えないトンネル」haku kyoto（京都、2024 年）ほか

生まれ育った風景の記憶や自身の出自をもとに、自らの「土着性」とは何か、またそれがどのように絵画に表れるのかを問い続ける。



「雪国への帰路」 2025, Oil on canvas, 91.0 x 72.7 cm

© Kousai Shiraishi

竹林 玲香 | Reika Takebayashi

1998 年大阪府生まれ。2020 年京都造形芸術大学美術工芸学科油画コース卒業。2022 年京都市立芸術大学大学院修士課程油画専攻修了。

個展「You should care more about butterflies」タカ・イシイギャラリー 前橋（群馬、2024 年）ほか

せせらぐ川の水面にきらめく光の反射や岩石の表面にみられる紋様など、竹林は身のまわりの自然が作り出す現象を観察しキャンバス上に取り入れた絵画作品を制作している。絵画とあわせて制作している陶板作品は、粘土の成形や釉薬の塗布において実験的な試みを重ねることで、制作過程で生じるコントロールが困難な反応との積極的な対話が見てとれる。



「Minakami」 2025, Acrylic and oil on canvas, 180.0 x 150.0 cm

© Reika Takebayashi. Courtesy of Taka Ishii Gallery / Photo: Kenji Takahashi

GALLERY SCENA. (ギャラリー・セナ) とは: 平安時代から近現代の日本画を中心に洋画、浮世絵など幅広く扱う秋華洞のブランド。コンテンポラリーアートを扱う。国内外アートフェア出展多数。

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願いいたします。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

連絡先 |

GALLERY SCENA.

Email: info@gallery-scena.com

Website: <https://gallery-scena.com/exhibition/>

ぎゃらりい秋華洞

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-4-8 曽根ビル 7F

TEL 03-3569-3620 FAX 03-3569-3621

Website: www.syukado.jp * 「しゅうかどう」で検索してください

展覧会担当: 田中 プレス担当: 山田 (Email: info@syukado.jp)